令和８年度　公共事業再評価調書

社会資本整備重点計画

始まる-4
始まる-11

１．評価シート

事業名	道路事業［国道橋りょう改築事業（国補）］	事業箇所	甲府市伊勢	路線（川） 工区名	国道358号 （遠光寺北交差点）	事業主体	山梨県 道路整備課

計画期間	当初計画	現計画	変更計画
	H29 ～ R8	—	H29　～　R11
総事業費	2,000百万円	—	2,000百万円
B/C	2.4	—	2.4

（１）事業の進捗状況・変更内容

①進捗率（事業費ベース）　　※R8時点の値。実績は見込。

現計画　100%　　実績　58.5%　　変更計画　58.5%

②事業進捗（工事・用地）

現在、用地取得及び支障物移設は完了し工事に着手しているが、用地取得及び支障物移設に時間を要したため遅れが生じている。

③執行の見込み

用地取得及び支障物移設が完了しているため、順次工事を進め事業進捗を図る。

④変更内容とその理由

内容	事業費増減	変更理由
事業期間延長	－	用地取得及び支障物移設に時間を要したため、計画期間を３年延長する。
	百万円	
	百万円	
	百万円	
	百万円	
合計	百万円	

（２）評価時点の費用対効果分析

項目			事前評価時点	再評価時点
総事業費			2,000百万円	2,000百万円
工期			H29　～　R8	H29　～　R11
経済効率性	評価基準年		H29	R8
	B/C		2.4	2.4
	費用		1,506百万円	1,939百万円
		建設費	1,470百万円	1,893百万円
		維持管理費	36百万円	46百万円
	便益		3,680百万円	4,670百万円
		走行時間短縮	2,842百万円	3,924百万円
		走行経費減少	545百万円	219百万円
		交通事故減少	48百万円	214百万円
		その他	245百万円	313百万円

※その他は、救急救命率向上便益・観光客増加便益

（３）所管部の方針　　見直し継続

令和2年3月に策定された「リニアやまなしビジョン」において、リニア駅と甲府駅を結ぶ主要幹線道路の国道358号遠光寺交差点を改良することとなっている。

また、本事業箇所は主要渋滞箇所であり、解消に係る県民からの期待は高いことから事業を継続し、変更計画に基づき令和11年度の完成を目指す。

（４）変更履歴　　無

２．評価シート（任意）

（５）事業を巡る社会経済情勢等の変化 有

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

なし

②産業・経済情勢

労務費・建設資材費の上昇

③国等の方針

なし

④上位計画・関連事業計画等

「山梨県総合計画」（令和5年10月策定）
「山梨県強靱化計画」（令和6年3月改訂）
「山梨県社会資本整備重点計画（第五次）」（令和8年3月改訂）
「山梨県道路の整備に関するプログラム」（令和7年3月改訂）
「リニアやまなしビジョン」（令和2年3月）
「山梨県自転車活用推進計画」（令和元年9月）

⑤自然環境条件等

なし

⑥その他

詳細設計の結果、既存施設の活用ができることが判明し、工事費の縮減をはかることができた。このことにより、労務費や建設資材費は上昇しているものの、事業費の増額には至らなかった。

（６）環境負荷等への配慮 無

（７）コスト縮減の可能性 無

（８）代替案立案の可能性 無

（９）事業概要の大幅な変化 無

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①事業の目的

②目標・効果

主要目標

副次目標

副次効果

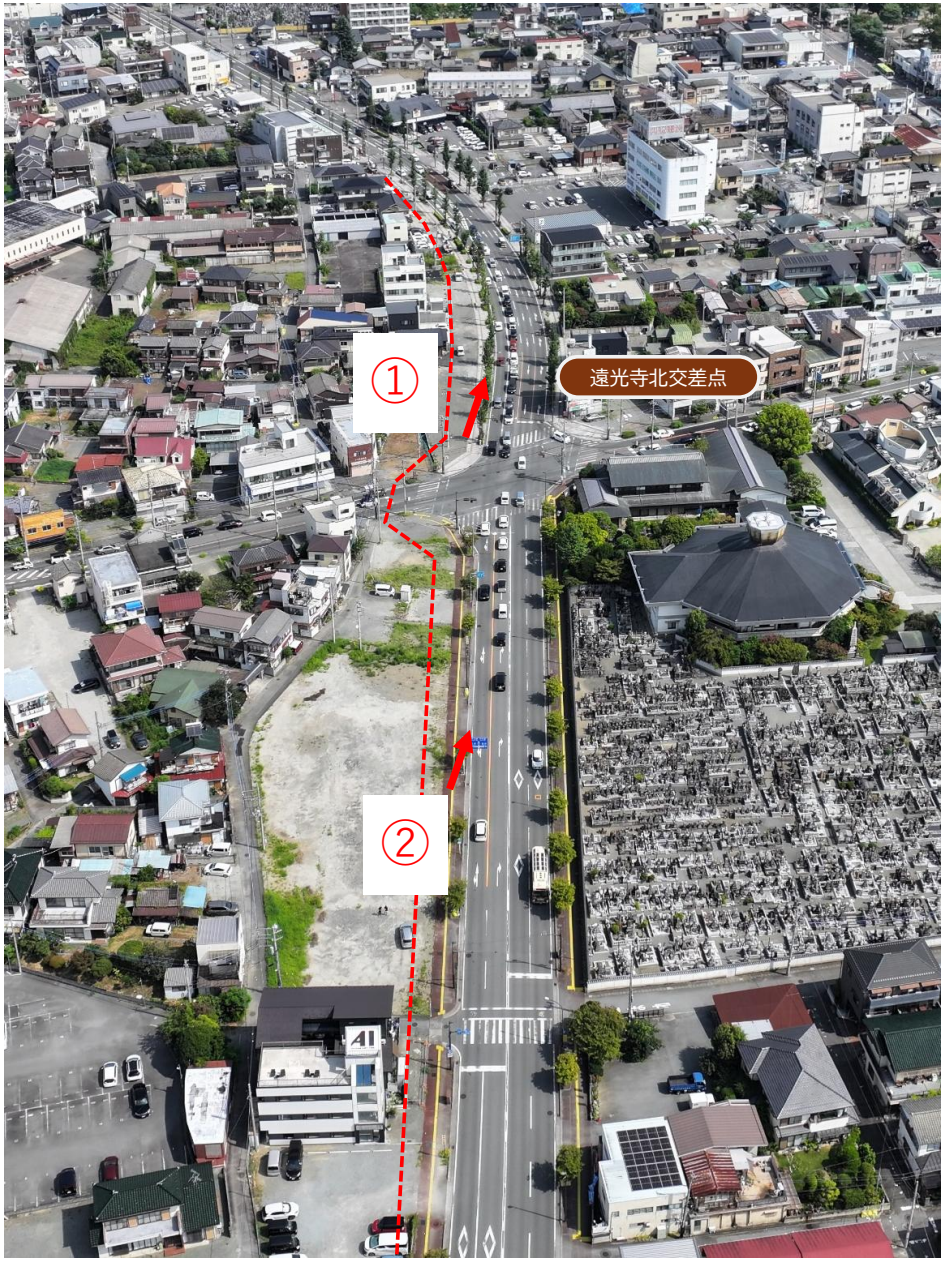
③整備内容

④特記事項（関連事業概要等）

３．添付資料シート（１）


至　甲府駅
交差点改良　L=350m　W=15.0(24.0)m
遠光寺北交差点
千秋橋
荒川
A
A’
至　甲府南IC
標準横断図
（整備前）
標準横断図
（整備後）
AA’断面
20.00
3.50
3.00
3.00
3.00
3.00
3.50
0.50
0.50
自歩道
自歩道
24.00
3.50
1.00
3.00
3.00
3.00
3.00
3.00
1.00
3.50
自歩道
自歩道

４．添付資料シート（２）



全景（南側より北側を臨む）



①遠光寺北交差点北側右折レーン渋滞状況



②遠光寺北交差点南側北進方向

調査に関する事前評価済（H17）

平成29年度　公共事業事前評価調書

【事前評価調書】

1．事業説明シート

（区分）国補 ・ 県単

事業名	道路事業［緊急道路整備改築事業（国補）］	事業箇所	甲府市伊勢	地区名	国道358号（遠光寺北交差点）	事業主体	山　梨　県

（1）事業の概要

①課題・背景

国道358号は、富士河口湖町を起点とし、甲府市中心部に至る幹線道路であり、甲府市街地と郡内地方の生活圏の連絡及び県内外の物流・観光振興に寄与するとともに、災害時における第一次緊急輸送道路の役割を担う重要な道路である。

遠光寺北交差点は、甲府市街地南北及び東西方向の交通流の結節点であり、朝夕の通勤時間帯には交通が集中し渋滞長が最大650m（実測）になる等、著しい交通渋滞が発生しているため、道路改良を早期に進める必要がある。

②整備目標・効果

□主要目標　○生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上

混雑時走行速度：26.9ｋｍ/ｈ＜30ｋｍ/ｈ以下※
自動車交通量：16,036台/12ｈ＞3,314台/12ｈ(平日)以上※　※評価基準値

□副次目標　○災害に強い道路の確保

危険度・損傷度：なし
緊急輸送道路の指定：指定あり（第1次緊急輸送道路）
自動車交通量：16,036台/12h＞3,314台/12h(平日)以上※　※評価基準値

□副次効果　○主要渋滞ポイントの解消

（通過に5分以上を要する等、著しい渋滞が発生している交差点の解消もしくは大幅な改善）

○走行安全性の確保

（死傷事故率：525.7件/億台km＞100件/億台km以上※　評価基準値）

③目標達成の方法

下り車線（甲府駅方面）直進車線数の増
現行：１車線　→　改良後：２車線

（2）整備内容

①整備内容　道路改良　L=350m　W=15.0(23.0)m
②着手年度　平成29年度　③完成見込年度　平成38年度
④総事業費　約2,000百万円(国費1,188百万円(5.94/10)県費812百万円(4.06/10))

⑤年度別の整備内容

		（事業費）
平成29年	測量・設計	20 百万円
平成30年	設計・用地測量	50 百万円
平成31年	用地調査・用地取得	120 百万円
平成32年	用地取得	200 百万円
平成33年	用地取得	300 百万円
平成34年	用地取得	300 百万円
平成35年	用地取得・道路改良工事	300 百万円
平成36年	道路改良工事	200 百万円
平成37年	道路改良工事	300 百万円
平成38年	道路改良工事	210 百万円

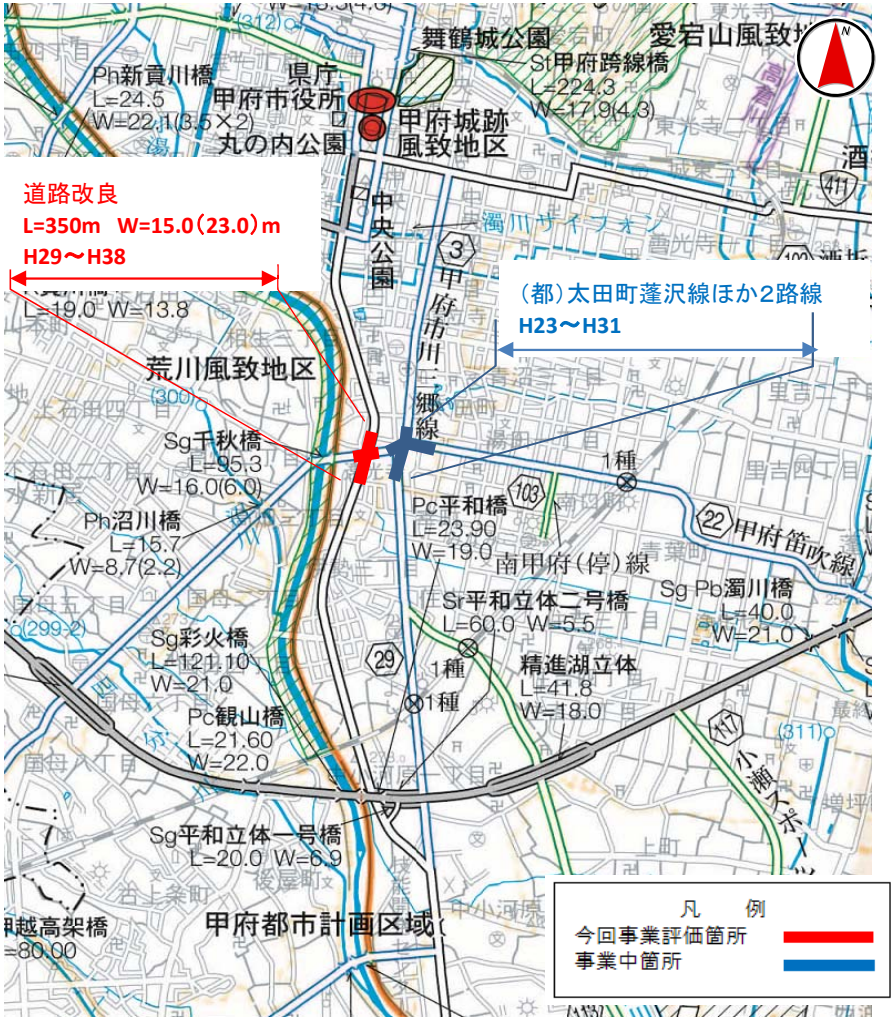
□既整備内容・期間・事業費

（都）太田町蓬沢線ほか２路線
平成23年度～平成31年度　総事業費　3,660百万円

（3）中・長期計画等の位置付け

- 「ダイナミックやまなし総合計画」（平成27年１２月）
- 「山梨県強靭化計画」（平成27年12月）
- 「山梨県社会資本整備重点計画-第三次-」（平成27年12月）
- 「リニア環境未来都市整備方針」（平成２９年３月）
- 「山梨県バス交通ネットワーク再生計画」（平成２９年３月）

（4）事業位置等図



【事前評価調書】

2．評価シート

（1）公共関与の妥当性（行政が行うべき事業か）　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
本路線は甲府中心部へ接続する主要幹線道路であり、社会的受益は大きく極めて公共性が高い。

（2）事業執行主体の妥当性（県が行うべきか）　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
本路線は、県管理国道であり道路法第１２条の規定により県が実施すべき事業である。

（3）経済効率性　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
・費用(C)＝15.06億円　(内訳)改築費 14.7億円　　維持管理費 0.36億円
・便益(B)＝36.8億円　(内訳)走行時間短縮 28.42億円　走行経費減少 5.45億円
交通事故減少　0.48億円　追加便益　2.45億円
・費用便益比（B/C）＝2.4
費用便益比（B/C）は国の採択基準1.0を超えている。

（4）事業実施・規模の妥当性　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
朝夕の通勤時間帯を中心に慢性的に発生している渋滞を解消するため、現況交差点を中心とした現道拡幅改良計画とした。

□同等施設等(計画を含む)の有無　〈有・無〉
(状況)

□必要整備内容の根拠
(状況)
整備区間は遠光寺北交差点前後において、下り車線が2車線から1車線に縮小されている区間であり、交通のボトルネックとなっているのを解消するのに必要な区間長とした。幅員等規格は道路構造令による。

（5）整備手法の有効性　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
西側のみ拡幅を計画することにより、地域への負担をなるべく少なくし、最も経済的な計画とした。

□他の整備手法の有無　〈有・無〉
(状況)

（6）環境負荷への配慮　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
・本事業箇所は市街化された区域であり、自然環境への影響は少ない。
・本事業を実施することで渋滞が解消されるため、排気ガス中の大気汚染物質が軽減する。

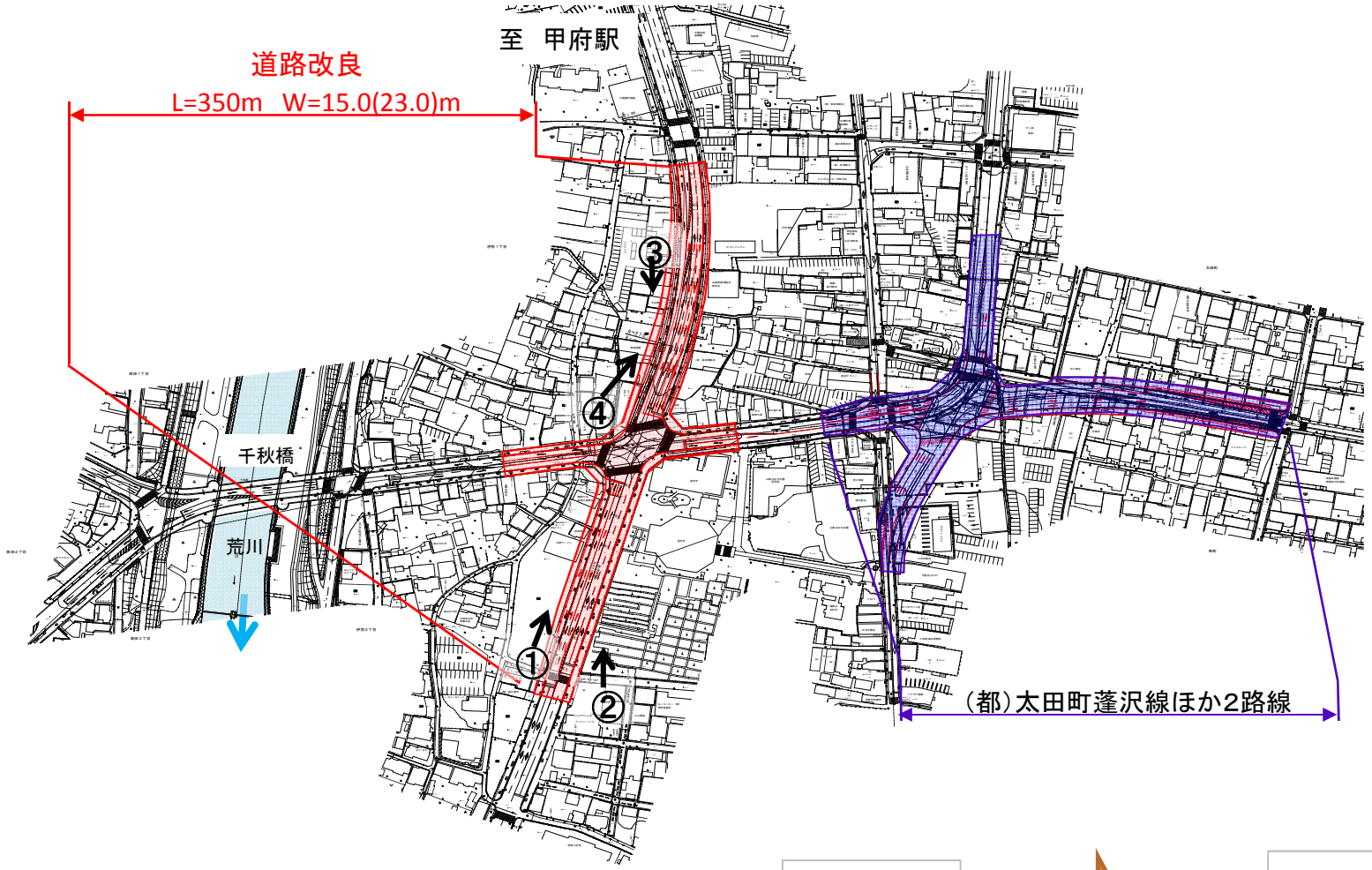
（7）事業計画の熟度　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
平成29年３月に策定された「リニア環境未来都市整備方針」「山梨県バス交通ネットワーク再生計画」において、リニア駅と甲府駅を結ぶ国道３５８号の速達性・定時性の向上を求められており、リニア中央新幹線開業までに本区間の整備を完了する必要がある。
また、本事業箇所は主要渋滞箇所であり、この解消に県民からの期待は高い。

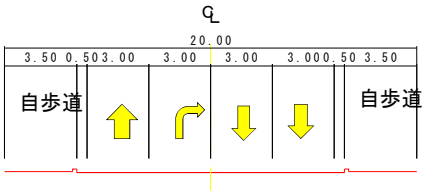
《総　合　評　価》　〈妥当・妥当でない〉

(理由)
7項目全て妥当と評価されていることから、実施が妥当と判断する。

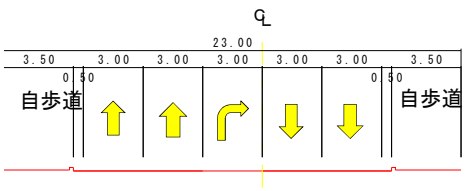
【事前評価調書】



標準横断図
（整備前）



標準横断図



【事前評価調書】

① 遠光寺北交差点南側北進方向



② 遠光寺北交差点南側右折レーン滞留状



③ 遠光寺北交差点北側南進方向



④ 遠光寺北交差点北側右折レーン渋滞状況

